

回想法センター・7月号

2019年 6月20日発行
発行 龍ヶ崎市回想法センター
龍ヶ崎市平台 5-9-7
電話・FAX 0297-65-4443
email: pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
hp: www.piakaiso.sakura.ne.jp

平等ってなんだろう？

皆同じにすればいいの？

平等には『皆に同じだけ分けるのが平等』と『必要な分だけもらうのが平等』という考え方があります。スウェーデンでは障害者の介助ヘルパーも、24時間必用な人には24時間のサービスを、1日3時間でいいと言う人には3時間のサービスを提供しています。

ところが日本では、皆が同じように「一日10時間まで」と決められていて、それを使うことが平等になっています。受けたサービスは人それぞれ違うのにです。介護保険でも要介護度によってサービスを受ける時間やサービス内容が決まっています。必要な介護は、人、一人一人違うのにです。スウェーデンの平等は、一人一人が望むことをしっかりと聞かないといけません。人それぞれが望むことが違うので聞く方は大変です。同じにしておけばよいという日本の平等は曲者ですネ。イギリスには障害手帳がありません。当事者、家族、ヘルパー、行政等、関係者が集まり、その人が受けたサービスを受けられるよう話し合っサービスを決めてゆきます。



日本も、見習ってほしいですね。

違いを受け入れる社会を

1歳半で脊髄性筋萎縮症(SMA)と診断された海老原宏美さんの著書「わたしが障害者になる日」旬報社を読み始めました。夫が48歳の時、病気の後遺症で障害者になったときは、夫が障害者になると家族までもこんなにも不便になるのかと当時のことが蘇りました。

海老原さんは、2016年度東京都女性活躍大賞を受賞。「価値とは人の心がつくりだすもので、それは人間だけに与えられた脳力。ただ土の盛り上がりである富士山に感動し、価値を見いだせるのなら、自分と同じ人間である障害者にも価値を見いだせるはず。ただ静かにそこにいて”人の価値とは何か”を考えさせてくれる障害者は、それだけでじゅうぶん存在する意味があるのではないかと、都知事に手紙を書き話題になった方です。是非ご家族みんなで読んでいただき、違いを受け入れる社会を考えてみませんか？けがや病気で障害は誰にでも起こる可能性があるからです。

7月の予定

7月14日(日) 映画会	1時30分～	ショッピングセンターリブラ1階
7月17日(水) 笑顔屋	10時30分～12時	ショッピングセンターリブラ1階
7月26日(金) 家族会	10時30分～12時	ショッピングセンターリブラ1階
7月28日(日) 映画会	1時30分～	ショッピングセンターリブラ1階

問い合わせ先 龍ヶ崎市回想法センター

